



2017年（平成29年）12月25日発行

特定非営利活動法人
あきたスギッチファンド

TEL 018-839-8941

FAX 018-829-5803

e-mail madoguchi@sugicchi-fund.jp<http://www2.akita-kenmin.jp/~akita-npo-fund/>

Topics

- ★ 8月に全国心臓病の子どもを守る会秋田支部から200万円のご寄付を頂戴しました。早速第18回の助成事業で、冠ファンドとして「病児の支援活動を応援するファンド」として募集しました。
- ★ 10月に秋田銀行行員の皆様から99万円余のご寄付を頂戴しました。冠ファンドとして高齢者支援、若者支援事業を第19回の助成事業で募集します。
- ★ 11月29日、スギッチが遂に引退しました。前にお知らせした通り、あきたスギッチファンドとしては名称はそのまま続きます。ロゴマークは使えませんので、当分なしのままとします。

あきたスギッチファンドの活動（8月～12月）

第17回本ファンド、少子化対策応援ファンドで採択された事業が次々と実施され、その報告が提出され始めています。

10月19日	第13回チャリティ・ゴルフコンペ in 樺台 於：秋田樺台カントリークラブ
10月 2日～11月 2日	第18回本ファンド助成事業 募集
12月 2日	第18回本ファンド助成事業 審査会 於：遊学舎

- ★ スギッチファンドの12月20日現在の寄付金額は **4,201,746円**

今後の予定

1月27日 認定特定非営利活動法人あきたスギッチファンド 設立10年
記念行事 14時～14時30分

記念講演会 14時30分～16時30分
演題 「地域の未来を創るコミュニティファンド」
講師 公益財団法人パブリックリソース財団
代表理事 岸本幸子氏

記念祝賀会 17時～19時

会場 秋田ビューホテル



第18回本ファンド（2017年度第2回）助成事業決定

第18回の審査委員は、下記の通り17回と同じだが、小室委員が都合により今回の審査に参加できないということで、代理に中小企業診断士で県のよろず支援拠点でコーディネーターを務めておられる鎌田晶子氏に加わって頂いた。また今回「全国心臓病の子どもを守る会秋田県支部」からの寄付金で組成した冠ファンド「病児の支援活動を応援するファンド」には、同支部代表の滝波洋子氏にも審査に参加して頂いた。

栗谷 侑志	株式会社ワーズ
小室 秀幸	(株)小室経営コンサルタント代表取締役 インキュベーションマネージャー
小松 弘樹	秋田県あきた未来創造部 地域の元気創造課 県民協働推進班主幹兼班長
佐々木 美奈子	NPO法人いきいきFネット秋田 理事 秋田県男女共同参画センター 副センター長
高橋 雄悦	株式会社秋田魁新報社 総務局次長兼総務部長
沼倉 充	NPO法人秋田県南パソコン支援市民ネット 副理事長
村岡 典子	まちなかトープ 代表

第18回の募集は10月2日～11月2日。同時に冠ファンド「病児の支援活動を応援するファンド」の募集も行った。応募件数は50万円コースが多く、3倍の応募があった。

12月2日（土）遊学舎での公開審査会では、活発な質疑応答があり、選考委員から書類だけでは分からない、プレゼンテーションが大事だという意見が聞かれた。また、選考検討協議では、冠ファンドの「子育てラボ」についてはこんな仕組みを全県に広げるきっかけにして欲しいという意見、30万円コースの「国際教養大学秋田若者活性化委員会」や50万円コースの「由利本荘にかほ市民が健康を守る会」については、中高生、大学生の活動を広げる事業に期待したいという意見、50万円コースの「和田公園愛護会」の事業には、若い人たちが参加するような工夫が必要という意見があった。なお、選考委員が申請団体や申請事業の関係者である事業が今回1件あり、書類審査、公開審査ともに審査には加わらなかった。

募集、応募、採択状況

助成額	募集件数	応募件数	採択件数
上限10万円コース	2	5	2
上限30万円コース	3	4	3
上限50万円コース	2	6	2
冠ファンド 病児の支援活動			
上限10万円コース	2	0	0
上限20万円コース	1	1	1



本ファンド



10万円コース

団体名 ピース・オブ・ベルズ（POB）（秋田市）
事業名 第9回世界平和祈念クリスマスチャリティーハンドベル演奏会

秋田大学医学部の学生たちが、アフリカのザンビア・マケニ村に医療施設を建設するザンビア・ブリッジ企画に参加し、ザンビア風お好み焼を販売して資金を集めている。POBはこの活動を支援して、12月17日（日）秋田県中央地区老人福祉総合エリアでチャリティーハンドベル演奏会を開催する。由利本荘市のハンドベル2団体にも参加してもらおう。演奏会を通じて募金を行い、ザンビアのマケニ村の医療施設の完成に貢献したい。

団体名 特定非営利活動法人コミファ（秋田市）
事業名 依存症を持つ家族の支援事業

依存症問題は、過度の飲酒による健康被害や交通事故被害、ギャンブルなどの経済的破綻など、社会問題として深刻さを増している。その家族も同じように苦しみを抱えている。当法人は家族会を毎月1回開催し、勉強会やミーティングを実施する。また相談事業や広報活動を行い、家族が同じ悩みを語り合い、病を理解し乗り越え方を学び、問題の解決に向けて活動する。

30万円コース

団体名 北秋田ミュージック・ケア研究会～ハートミング～（北秋田市）
事業名 ミュージック・ケア体験セミナー



ミュージック・ケアとは、だれでも、どこでも、いつでも楽しめる音楽療法。その人がその人らしく生きるための援助を音楽を通して行う方法として、医療、福祉、保育、教育の現場で幅広く実践されている。当会では平成27年以来研修や体験型イベントを実施している。

今回2月4日に北秋田市で、日本ミュージック・ケア協会理事長による体験セミナーを開催する。ミュージック・ケア実践者の育成により、この活動が広がり、多くの方が音楽の力によって心身の健康促進が図られることを目指す。

団体名 市民おもしろ塾（能代市）
事業名 能代市杉沢台縄文竪穴住居図の展示と関連遺物展示と講演会・シンポの開催

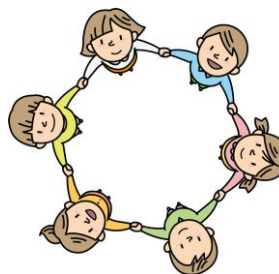
能代市杉沢台縄文竪穴住居は三内丸山の竪穴住居に匹敵すると専門家筋から言われているが、能代市民の多くは知らないでいる。そこで当塾は、秋田県埋蔵文化財センター、秋田県文化財保護協会能代支部、能代市教育委員会と協力し、3月に2日間展示会と講演会を開催する。杉沢台の遺物のレプリカ、発掘写真のパネル等の展示と専門家の講演「縄文時代と杉沢台」、パネルディスカッション「能代の縄文遺跡の価値と文化の保持、伝承」を予定している。

市民が地域の雄渾な歴史、優れた文化を見直し、ここから地域再生への歴史と文化の展示運動につなげていきたい。

団体名 公立大学法人国際教養大学秋田若者活性化委員会（秋田市）
事業名 FROM PROJECT 秋田 第4期

FROM PROJECT（ふろぷろ）は、「社会に“Good Impact”を与える人材の輩出」を目的に、慶応義塾大学鈴木寛ゼミが発足させた団体。国際教養大学学生有志がこの趣旨に賛同しふろぷろ秋田を結成。秋田県内の中高生を対象に課題発見力、地域問題解決力を養うための講座を開催した。第1期～第2期は28年度に、第3期は29年6月～7月に講座と最終報告会を実施した。第4期では8回の講座と最終報告会を開催し、最終報告会で代表を選出、選出された高校生は東京都内で開催される Good Impact Challenge（一般社団法人全国 FROM PROJECT 主催）に出場する。

高校生が身近にある課題に向き合いプロジェクトを立ち上げる体験、全国各地のふろぷろ関係者と交流する貴重な機会となる。



50万円コース

団体名 NPO 法人由利本荘にかほ市民が健康を守る会（由利本荘市）
事業名 由利本荘市の大学生を応援しよう！

多くのイベント開催実績のある当法人が、秋田県立大学の学生まちづくり団体を支援し活動を補助、アドバイスして、大学生に地域貢献を学んでもらう機会を創出する。これまで既に「浴衣で歩こう」や「朝市」で学生と一緒に活動した実績があるが、これをさらに進めるとともに、ケアカフェ、認知症カフェ、がんサロンへの参加、所得の低い家庭の食事支援や学業支援なども行ってもらう。町内会などとも協力して、年間を通して活動することで、由利本荘市の賑わいを取り戻すための一助とする。



団体名 和田公園愛護会（秋田市）
事業名 河辺中央児童館解体跡地への再生計画（案）にもとづく事業

旧河辺町の中心部に位置する和田公園は、約50年前から地域の人びとが協力しあって、憩いの場として手造りで整備してきたものである。ところがこの10年間は、公園管理方法を巡って市の担当課と折り合いがつかず、当会は手を引いていたが、平成28年から再び公園管理に復帰することになり、現在整備中である。今回公園にある中央児童館が解体されることになったので、この跡地の植栽、デザイン、看板の設置などを行って公園を再生させたいと考えている。

会員を増やしながら、イベントのできる場、桜まつりなど地域の人びとが楽しめる場として、地域の人たちで維持管理していきたい。

冠ファンド 「病児の支援活動を応援するファンド」

20万円コース

団体名 子育てラボ（秋田市）
事業名 小児科医と連携した病児託児・病児通院サポートのシステム作り

急な子どもの病気や病児を抱えて、育児と仕事の両立に悩む母親や家族は多く、また一方子どもたちは精神的、肉体的に負担を強いられている。そのような人々のために、病児託児・病院通院サポート事業を実施する。事業への対応は看護師、保育士、託児者養成講座受講者などの要資格者が行う、また小児科医と連携することで急性期の子どもも預かることができる。今回は、このシステムのために必要な物品の購入や広報などに助成金を活用する。



助成金でこんな活動をしました！

エリックさんとハロウィンコンサート

あおむしイングリッシュ

平成29年度少子化対策応援ファンドで
40万円助成

平成29年10月28日（土）、遊学舎を会場に、エリック・ジェイコブセン氏を招いて、ハロウィン・コンサートを開催した。あおむしイングリッシュは、「親子で英語 in フォンテ文庫」という名称で、毎月第一土曜日フォンテ文庫で、英語で絵本の読み聞かせ、手遊び、英語の音に合わせた簡単なリズム体操などを行っている。今回ハロウィンの時期に、エリックの音楽世界を通して英語の楽しさを子どもたちとその家族に味わって欲しいと企画したものである。

コンサートは午前と午後の2公演実施。ハロウィンのコスチュームを着た親子が、エリックの音楽に合わせて踊ったり歌ったりして楽しんでくれた。忙しい日々の中で、親子共々いつもとは異なる体験に心身ともに癒される機会となったのではないかと思います。



にこにこ食堂の開設「にこにこ食堂がやってくる！」

にこにこ食堂プロジェクト実行委員会

第16回（平成28年12月助成）の本ファンドで
10万円助成

大館市のたしろ児童館で、平成28年12月～平成29年5月の間に8回子ども食堂を開催、のべ218名の子ども達に食事を提供した。食事と併せて、食にまつわる話、絵本の読み聞かせ、健康教室なども実施した。偏見や来ずらさを感じさせることのないように、子ども達を集めるのではなく、児童館という子ども達が集まるところを会場にした。「子どもたちの居るところで開催」は、全国の子ども食堂でもない視点であり、これは他の地域の児童館にも広げていくことができるのではないかと思う。



秋田生き生きパソコンライフ

ばそらいふ秋田

第16回（平成28年12月助成）の冠ファンド「活力ある高齢社会づくりファンド」で30万円助成

インターネットが怖くて、パソコンを活用できていないという人は大勢いる。そのような人を対象に、パソコンの基本操作を教える講習会を秋田市、由利本荘市、羽後町、男鹿市、井川町、潟上市などで延べ21回開催し、参加者は80名に上った。基本操作を習得した上に、メールでのコミュニケーションの取り方、インターネットを使って日常品の買い物をする体験なども実施した。

今後もパソコン操作で困ったことが発生した際は、遠隔操作で対応したいと考えており、シニア層の新しいネットライフの一つになるようサポートしていきたい。

あきたスギッチファンド寄付者一覧（平成29年8月～平成29年12月）

※敬称略、順不動、お名前の公開許可を頂いた方のみ掲載します。

団体・企業等	株式会社福岡ドライクリーニング、株式会社あくら、 みちのくコカ・コーラボトリング株式会社、有限会社ワタ商事、株式会社伊藤園秋田支店、 サントリービバレッジサービス(株)秋田支店、ダイードリンク株式会社、(株)秋田銀行、 奥羽住宅産業(株)、秋田県職員消費生活、スギッチ応援隊、椿台ゴルフクラブ、 全国心臓病の子供を守る会
個人	スギッチ応援隊、日本らんちう協会、おんぷの会、ベコアイランド、武藤馨、 代田浩章、宮田寿美子、畑沢君子、加賀谷智子